

# 2020年 新春号 **粵報**

今年の新年會は1月25日、同發別館にて開催されました。會員・ビジター合わせて61名参加のもと、周慶錦會長の新年の挨拶に続き、陳専務による、情報を交えながらの乾杯の音頭で宴がスタートしました。今年は、書道家の加地先生をお招きし、ライブパフォーマンスを披露していただきました。墨と金による巧みな筆使いに一同圧巻され、感動の拍手がわき起こりました。演芸は、テレビで話題の『新宿カウボーイ』が出演し、持ちネタのお笑いで、会場は大爆笑となりました。また、恒例になりつつある生演奏は區監事の所属するバンド、D.J.'s (平均年齢70歳) が登場し、ベテランメンバーの年季の入った生演奏が披露され、曲にあわせてダンスを踊ったり、リズムをとりながら一緒に歌う方もいらっしゃいました。くじ引きでは、今年から景品の趣向を変え、ワインクーラや、自動お掃除ロボット、電気ケトル、オーブントースターなど、豪華さがアップしました。その他、デイズニーチケットを賭けたジャンケン大会、ご長寿會員様への花束の贈呈があり、美味しい食事と楽しいイベントで今年も新年會は盛り上がりました。

## 春節新年會

同發別館



## 4/5 (日) 花見・懇親會のお知らせ

【花見観賞會】

日時：4月5日(日)  
 場所：陳直前會長宅庭  
 (※雨天中止)

参加費：會員 / ¥1,000  
 ビジター / ¥2,000

開 宴：14:00～

※清明節の團拜後に開催しますので、どうぞ團拜と併せてご参加下さい。



＜参加のご連絡をお願いします＞

◎花見會参加の方は、  
**3/30 (月)までに事務局へ必ずご連絡下さい。**

## 4/5 (日) 清明節團拜のお知らせ

【清明節團拜】

日時：4月5日(日)  
 場所：中華義莊

會館集合：11:10

會館出発：11:15

式典開始：12:00

※集合時間厳守をお願いします。



＜参加のご連絡をお願いします＞

◎團拜参加の方・タクシー同乗ご希望の方は、  
**3/30 (月)までに事務局へ必ずご連絡下さい。**  
 ※当日會館よりタクシーで中華義莊まで参ります。

事務局電話番号：045-681-9997

## 2019年 廣東獅子團活動報告

廣東獅子團は昨年にもたくさんのイベントや神事に参加させていただきました。媽祖祭・關帝誕のパレード、きたもん祭、大晦日の奉納舞や、春節新年會と出演もレギュラーとなり、廣東獅子團の存在も年々街に定着してまいりました。

獅子舞の内容も、初の書道家とのライブパフォーマンスのコラボや、ストーリー性をもった新演目の披露など、年々変化を上げています。更に、若い團員も新たに加わり、日々進化している状況です。

引き続き、中華獅子舞という伝統文化の継承と文化交流を目標に社会に貢献してゆけるよう團員一同ともに頑張つてゆきますので、會員皆様のご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

副團長 渡邊大修



横濱關帝廟にて奉納舞

若い新團員も増え活気にあふれる獅子團

## 除夕拜神禮 團拜・團圓のご報告

昨年12月31日の大晦日、理監事・會員と廣東獅子團が参加。會館一階ホールにて祭壇とお供え物を用意し獅子舞を奉納。横濱關帝廟・横濱媽祖廟へと團拜。團拜後は會館二階で参加者一同、年越し蕎麦でささやかな團圓がありました。小さな團員も加わり賑やかな会となりました。また一年間様々なイベントに参加・貢献いただいた、廣東獅子團員の活躍をみんなで労いました。



1階ホールにて

横濱媽祖廟にて獅子舞奉納  
ちびっ子團員も参加して賑やかな團拜となりました



## 廣東會館俱樂部

発行：廣東會館俱樂部  
 〒231-0023 横浜市中区山下町118-2  
 TEL: 045-681-9997 FAX: 045-228-9929  
 http://www.kanton-kaikan.jp  
 事務局員在館時間：月曜日～金曜日10:00～16:00



粵報は廣東會館俱樂部と會員を、そして會員同士を繋ぐコミュニケーション會報誌です。どうぞ、皆様の生活にお役立て下さい。ご意見ご希望等は事務局までお気軽にご連絡下さい。皆様の意見が廣東會館俱樂部を育てます。

# 「装いの横浜チャイナタウン」 気づいたこと・感じたこと…

其の2

「横浜ユーラシア文化館」  
伊藤 泉美 副館長  
廣東會館俱樂部 會長  
會員 (後編)

## 座談会

### 装いの 横浜チャイナタウン

華僑女性の服飾史

2019 4.13 ~ 6.30

横浜ユーラシア文化館



昨年4月～6月に横浜ユーラシア文化会館で開催された「装いの横浜チャイナタウン」の企画・監修をされ、横浜華僑の歴史を長年研究されている伊藤泉美先生と、本展に協力された、周慶錦會長、區傳宗監事、會員の張雅齡さんで座談会が2019年9月21日に開催されました。伊藤先生より、企画展の裏話やエピソード等、お茶を飲みながら「座談会」というリラックスした雰囲気の中で、お話を伺いました。

※先号からの続きを掲載しております。詳しくは、2019年冬号をご覧ください。

——先号からのつづき

【司 会】周會長のお母様の印象に残る衣装の思い出はありますか？

【周會長】母の残した衣装の数は結構多いと思います。

【伊藤先生】周さんのお持ちの衣装、一部拝見させていただきましたが46着以上ありました。

【周會長】母は香港に行った時にまとめて作っていたようです。うちの父もそうでした。香港で注文して、後から横浜に送ってもらったりして。

【伊藤先生】周さんのお母様の衣装は、年代によって形が少しずつ違ってきたり、襟はあくまでチャイナの形だけど、下がドレス(洋装)に変化していたり…その方が着やすいのでしょうか。

【張會員】それは、普段からチャイナドレスを着こなしていたからこそ、自分なりにアレンジしていたのかもしれないね。私の父は洋服屋(仕立て)をやっていたが、「こうしてほしい、あおしてほしい」など、お客様の要望に合わせてカスタマイズして、着やすいように作っていました。だから會長のお母様もチャイナドレスをよく知っていたからこそ出来たんだと思います。

【周會長】やはり、形や柄など流行もあったんですかね…。

【張會員】香港はとにかく衣装が、ボディコンシャスで「ボン・キュ・ボン」みたいな…。「香港女

ましたが、はじめ全然わからなくて…。

【伊藤先生】実は展示会の前に、広岡さんが張さんのドレスを見た時に、ボタンの存在に気づいて教えて頂きました。展示会では広岡さんから同じ時代の飾りボタンをお借りしてつけさせていただきました。

【張會員】当時の写真を見たら、布ボタンではなく、カフスボタンのような飾りボタンがちゃんとあるの。そんな物が別にあるなんて全く知らなくて、言われてはじめてわかったの…。サスガですね。

【司 会】ウエディングドレスといえば、第一回の「横浜華僑写真展」で呉笑安先生の結婚式の写真がありましたね。

【伊藤先生】(※b写真を見る)凄いですね、とてもいいお写真です。これも掛を着ていない。前川写真館で撮影していますね。今は反町に移ってしまいましたが、戦前は現在の神奈川新聞社の辺り弁天通にありました。鮑家、魏家の古い写真もここで撮っています。

【張會員】ウエディングドレス残ってないかな…。

### ■中国の古い風習

【司 会】1950年代頃、中華街には「纏足」の方はいらっしゃいましたか？

【區監事】昔、廣東飯店の隣の奥の方に住んでいた財閥の方がそうでした。そこのおばあちゃんが纏足で、この位の(握りこぶし程度の大きさ)足だった。なぜ私の方が知っているかというと母が麻雀が好きで、みんなを家に呼ぶんですよ。歩きかたもちよこちよこ、纏足は母の上の世代が最後でしょうね。街にはもう一人、纏足の

性はみんなスタイルいいね」なんて。小さい頃叔父に話したら、「風と共に去りぬ」みたいに、みんなギュッとウエストを絞っているから、あなるんだよ」って言っていました。

【伊藤先生】昔の人はそうですね。きつい下着を着ていたようです。

【張會員】だから父も「お客様から教わるが多かった」と言っていました。料理屋だってそうですよね、お客様から、ああでもない、こうでもないと言われて…。(笑)

【周會長】そうですね。(笑)

### ■結婚式の衣装の変遷

【伊藤先生】お伺いしたいのですが、結婚式の婚礼衣装がワンピースから上下分かれたツーピースになるのはいつ頃からでしょうか？

【張會員】私の時代、嫁入りする時に言われたのは、あの頃は結婚式はウエディングドレスが主流で、お色直しに掛※5(クワ)を着ていました。その他にはお祝い事がある度に着ていいのよと言われてました。だからお正月や誕生日、その他お祝い事などにも着ていました。

【周會長】お正月に我が家では、母の姉妹(叔母)や親戚が集まった時はコレ(掛)を着て写真を撮ったりしていましたよ。

【司 会】黒(上着)・赤(スカート)と、赤(上着)・赤(スカート)の組み合わせパターンがありますか…。

【伊藤先生】1970年代頃になると、赤・赤に変化して来たようです。本来は黒・赤のようです。

【張會員】息子(黄智發さん)の結婚式の時に嫁(黄茹さん)は赤・赤、私は黒・赤を着ました。嫁

方がいて、重慶飯店の近所に住んでいて…どこかの学校の先生のおばあちゃんでした。その方も足が小さかったのを憶えています。纏足の靴は先が尖っていて形が三角でちっちゃいの。

【張會員】そうよね、足をぐるぐる締めたいに巻いてかわいそうよね…。お芝居を見に行つて、芝居小屋が火事になり纏足の方は全員逃げられて亡くなったという話がありました。清朝の時代は柳腰でよちよち歩く様が美人の象徴だったということと、逃げられないようにするために纏足にしていたとか…。現代人からすると残酷な習慣ですよ。

【周會長】ふん、そうですね。そんな話が聞けるのも貴重ですよ。

【張會員】まだまだ話を聞いて！。80歳手前ですけど(笑)。やはり一世代上の方の話を聞かなかつたというのは、今思うと罪に感じます。

【司 会】雅齡さん世代は、普段の生活が忙しくてそのような時間が取れなかったからでしょうか？



※b 【1936年：呉笑安先生と葉肖麟女士 婚礼写真】  
所蔵：呉漢文

【張會員】いえ、昔の人は過去の事をなかなか喋りたがらない、言いたがらないのです。なぜなら「どうやって中国から渡ってきたのか」から始まる苦労話は自慢にも何もならないですからね。苦い過去の思い出を語るのは、やはり辛いですよ。先代たちはその経験があったからこそ、自分の子どもたちには苦労させまいと頑張れたのでしょ

うね。【司 会】写真展で展示されていた戦後1950年代の写真の女性たちのファッションがとてもお洒落で格好よく印象に残りますが。

【張會員】戦後華僑は戦勝国ということもあり、食べる物も心配なく良い格好もできる、とても優遇されていました。しかし戦前はすごく大変でした。戦争で街が焼けてしまったせいもありますが、戦前の写真が少ないのは、そういう事ですね。

### ■所蔵資料・コレクション

【司 会】伊藤先生は衣装以外にも保存されている資料があると聞きましたが。

【伊藤先生】そうですね、開港資料館に寄贈していただいたのですが、安楽園さんの食器類は一卓分再現できるように、その他には華勝樓さんのコックコートは、シミが付いた物をそのまま頂きました。とにかく捨てるのは一瞬なので。先日閉店された均元樓さんからは、お皿を頂きました。お店にあった均元樓の大きな看板はどうするのですか？と高岡さんにお聞きしたら、今後親戚の誰かが復活する際にまた使うかもしれないのでとっておくとの事です。

【張會員】今後、何か捨てる際は伊藤先生に一声

歴史を感じ取れ、知ることができる施設や博物館があったらな...と思います。年間2000万人もの観光客が来ているのにもったいないですよ。

【司 会】「横濱華僑写真展」の際も、直接個人からのお問い合わせや、各新聞社の取材も多く、地元の方はもとより、日本人の方も沢山興味をもってくださいました。

【張會員】確かに食べるだけの街ではなく、文化やコミュニティを知ってもらえたら、とても良いですね。

【伊藤先生】これだけ多くの修学旅行生が訪れる街に、一枚でも古い写真があれば、「こんな歴史があるんだ」「ここに暮らしてきた人たちがいるんだ」と感じてもらえますよ。

【周會長】そうですね、今はお店に古い写真を飾る所がだんだん増えてきました。

【伊藤先生】そうですね、店内にギャラリィやSNSで発信できるコーナーなどあってもいいですね。「同發コレクション」なんて。せっかく街の中に資源があるのですからもったいないですね。

【司 会】最後ですが、伊藤先生、次の企画は何か決まっていますか？

【伊藤先生】2年後の春に横浜ユーラシア文化館で※6「昭和の横浜中華街」という展示を予定しています。戦後を含め、各お店から寄贈して頂いた資料などを展示する予定です。お座敷での円卓は日本独特のものです。現代はみな椅子になっ

て、男性は洋装化が早く冠婚葬祭などの写真は洋服ですね。あと先代が亡くなると、遺品の整理ということで処分される方が多いです。

【周會長】私の父も全部洋服でした。本当に横浜華僑の歴史や習慣などいろいろ調べたり、聞いた

りするのは「今」しかないですね。この展示会や座談会で先代たちの事がいろいろ聞けたのは貴重な事だと思っています。世代的にも、もう我々の後は、古い伝統的な生活習慣とはあまり縁が無い

ですし、新しく中国から来た人たちが、どんどん増え街に住み着いて行く中で、今後どうなっていくのかを考えると少し怖い気がします。今まで行われてきた横浜の華僑の生活習慣や、いろいろなものが、身近な「服」を通じて、繋がっていました

が、今その機会が失われつつある。街がどんどん変わり、それがまた新しい歴史・文化になってゆく...それが時代の流れなのでしょう。

【張會員】今が過渡期なのかな。華僑の文化・伝統に関係のある企画を我々ができなくて伊藤先生がやって下さるのは、本当にありがたいです。私たち何も出来ないですもの...。早く次の世代に伝えないと。今ならまだ、古い写真や展示品を見て、あれこれ語れる人たちがいるというのは貴重です。

【周會長】そうですね、今なら「生の話」が聞けるけど、この先何年かで「資料」になってしましますね。

【張會員】小さいですが、廣東會館俱樂部でやった「横濱華僑写真展」はお陰様で大評判でした。【周會長】うちの本館(同發)、火事になる前の玄関のドアはまだとってあります。展示にどうでしょう？

【伊藤先生】いいですね！その扉を抜けて昭和にタイムスリップして展示を見るといいもの。【張會員】2年半なんて、あつという間ですね。楽しみにしています。

【司 会】本日はお忙しい中、お集り頂き、ありがとうございました。

※5 前号で「グア(掛)」と記しましたが、クワに訂正。  
※6 インタビューは昨年行われましたので、開催予定は2021年。



2012年12月横濱媽祖廟にて行われた両黄家の結婚式の様子

写真左手より  
①証婚人:陳 祐國 現:直前會長  
②紹介人:(媒酌人)  
③新郎父:黄 永健 會員  
④新郎母:張 雅齡 會員

新郎母の張雅齡會員は黒・赤の褂を着用。結婚式は昔ながらの中華式で行われ、証婚人は現:陳祐國直前會長がとめ廣東獅子團も祝儀に華を添えた。この挙式以降、現在まで横濱媽祖廟で伝統的な中華式の結婚式は行われていない。



中央赤い垂れ幕(喜帳)は、古くから同發で行われていた結婚式で使われていたものを使用(同發提供)



新郎:黄 智發會員 新婦:黄 茹 會員  
花嫁はワンピースではなく赤・赤の上下分かれたツーピースの褂を着用

が、伊藤先生の企画展をはじめ、この横浜華僑の文化を、これからどうやって繋いでいくかというのが、私たちの今後の大きな課題です...

### ■横浜中華街の魅力

【司 会】伊藤先生は横浜中華街・華僑の歴史をテーマにいろいろ研究なさっていますか？

【伊藤先生】そうですね、やはり「横浜の街そのもの」という感じがします。日本人だけではなく、いろいろな文化・価値観を背負っている人たちが沢山いて体现している街だなあと...。震災・戦争・空襲で国内の他の街では外国系の文化が途切れている所が多いですが、山下町は幕末・明治とずっと繋がっており、その人たちが生きていた姿が残っている街だということです。インド系・西洋系などは、全く無くなっているわけではありませんが(家の歴史として残っている所がある)、中華街のように大きなコミュニティとして残っているというのはここだけです。今回この展示をやり、アンケートを取ったところ、華僑の歴史をもっと知りたいという回答が多く、入り口(きっかけ)は衣装ですが、それを着ていた人にフォーカスすると、来館者は「この方だからこの服なのね...」と、やはりそちら(人物像)に訴えるものがあるようです。また一般の日本人には中華料理の街というイメージが強いようですが、そんな古い歴史があったんだと感じて下さる方も多かったのが印象的でした。

【周會長】この街の歴史も160年の蓄積がありますからね。

【伊藤先生】中華街の中に、ちよつとでもそんな